

北海道港湾空港建設協会

会報

令和2年1月

北のみなと

No.99

令和元年9月撮影「写真提供：函館開発建設部」



— 目 次 —

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹）…………… 1

Report

港関係団体と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催…………… 2

日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局が意見交換会を開催 …… 5

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催 …… 9

受賞

北海道水産林務部 令和元年度 水産土木工事等優秀業者表彰

「吉本組、酒井建設、萩原建設工業、釧石工業」…………… 10

各種記事

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」開催…………… 11

令和元年度 函館港大規模地震・津波総合防災訓練…………… 12

工事現場紹介「稚内港北護岸防波改良工事」

（藤建設株式会社 阿部正和）…………… 14

工事現場紹介「苫小牧港西港区真古舞地区国際物流ターミナル整備事業について」

（室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所）…………… 16

私の趣味「一生続けられる趣味」

（東亜建設工業株式会社 小野寺 勇）…………… 18

私たちの主張～未来を創造する建設業～「働く喜びを伝えたい」

（榊菅原組 小林 弘和）…………… 20

Topics

イベント

京都府立海洋高等学校生を対象とした出前講座の実施…………… 22

第9回苫小牧漁港ホッキまつり…………… 23

大型客船等寄港

今年度最後の豪華客船寄港…………… 24

4年連続道内最多のクルーズ船寄港（函館港）…………… 25

Information

広報委員会だより…………… 25



久遠漁港の概要

◎久遠漁港の役割

久遠漁港は周辺海域で操業する道内外からのイカ釣り漁業の北海道日本海有数の陸揚げ拠点であるとともに、札幌圏や全国の消費地へ出荷される水産物の流通拠点として重要な役割を担っている第3種漁港です。

◎主な整備方針

（1）漁獲物への異物混入を防止するとともに鮮度保持を図り、高度な衛生管理対策を推進するための屋根付き岸壁の整備。
（2）港口からの進入波や防波堤・護岸からの越波を抑制し、港内静穏度の向上を図るための防波堤や護岸の整備。なお、防波堤の整備にあたっては自然調和型とすることで水産生物の生育環境の創造を図ります。創出された静穏水域ではつくり育てる漁業への活用が期待されます。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

令和2年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を推進してきたところです。

政府は、相次ぐ自然災害を踏まえ、平成30年度から三年間でインフラ整備緊急対策を講じることとし、令和2年度は最後の年となります。国土交通省港湾局は、令和2年度の基本方針として、「被災地の復旧・復興」「生産性と成長力の引き上げの加速」「国民の安全・安心の確保」「豊かで暮らしやすい地域づくり」の4分野の取組みを強力に推進することとしており、これらの港湾関係予算が確実に確保されることが、我が国の成長力を高め、持続的発展を確保するために必要不可欠であると考えております。

北海道は、耕地面積が日本の4分の1を占めているほか、日本一の漁獲量を誇るなど日本を代表する食料供給基地となっており、北海道の港湾、漁港が農水産品物流

の拠点として貢献しております。

また、豊かな自然環境、高品質の農水産物などと共に豊かな観光資源が多く存在していることから、政府目標の訪日クルーズ旅客数500万人の達成に向けて港湾の受け入れ機能、北海道のインバウンド観光の振興に対応した空港の機能が期待されております。

このため、港湾、漁港、空港の整備及び機能強化は、北海道が活力があり魅力のある地域となるために極めて重要であることを訴えてまいります。

港湾空港関係建設業界は、週休2日等の休日の確保の実現、建設現場における生産性の向上等の課題を抱えておりますが、社会資本整備の担い手として、また、社会の安全・安心の確保の担い手として期待されており、その役割は益々重要なものとなっており、本年も、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら諸課題に取り組んでまいります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心より祈念いたします。

港関係団体と当協会が 北海道開発局と意見交換会を開催

令和元年12月6日（金）ポールスター札幌において、港関係団体と当協会の共催で「令和元年度港湾・空港・漁港事業に係わる意見交換会」を開催しました。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



宮崎会長



魚住港湾空港部長



北海道開発局・港関係団体

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長
港湾計画課長
港湾計画課港湾企画官
港湾計画課長補佐
港湾建設課長
港湾建設課長補佐
港湾建設課建設第2係長
港湾行政課長
港湾行政課長補佐
空港・防災課長
空港・防災課長補佐
農業水産部水産課長
農業水産部水産課水産企画官

魚 住 聡
箕 作 幸 治
白 熊 良 平
古 屋 武 志
早 川 哲 也
先 川 光 弘
森 昌 也
加 藤 章
井 本 丈 博
北 原 政 宏
日 色 徳 彦
横 山 純
星 道 太

◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会
会長

宮 崎 英 樹
宮 本 義 憲

技術委員会副委員長

○(一社)北海道建設業協会

港湾・漁港部会長

藤 田 幸 洋
百 瀬 治

港湾・漁港副部会長

○(一社)全日本漁港建設協会

北海道支部長

西 村 幸 浩
堀 松 一 郎

北海道副支部長

○(一社)日本埋立浚渫協会

北海道支部長

小 野 寺 勇
古 田 圭 也

北海道支部技術委員長

○(一社)日本海上起重技術協会

北海道支部長

宮 崎 英 樹

○全国浚渫業協会

北海道支部長

藤 田 幸 洋

○(一社)日本潜水協会

北海道支部長

堀 松 宏 朗

○港関係団体連絡会

会長

岡 崎 光 信

北海道港湾空港建設協会 要 望 事 項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾、漁港、空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存するなど、港湾、漁港は極めて重要な社会資本になっております。

特に、北海道は、耕地面積が日本の4分の1を占めているほか、日本一の水揚げ高を誇るなど日本を代表する食料供給基地となっており、北海道の港湾、漁港が農水産品物流の拠点として貢献しております。

また、豊かな自然環境などの観光資源が多く存在していることから、クルーズ船旅客数2020年500万人の達成に向けて港湾の受け入れ機能、北海道のインバウンド観光の振興に対応した空港の機能が期待されております。

このため、港湾、漁港、空港の整備及び機能強化は、北海道が活力があり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員各企業は、今後とも港湾、漁港、空港の社会資本整備を担い地域の発展に寄与する役割を果たしてまいり所存であります。

会員各企業における懸案事項について、下記のとおり要望いたしますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 事 項

1 令和2年度港湾空港関係予算の確保について

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存し、港湾、漁港は、極めて重要な社会資本になっております。

地域の基幹産業の競争力強化、農水産物の輸出力の強化、増加するクルーズ船の受け入れ機能の整備、離島の

安定的生活の確保、港湾の防災・減災、国土強靱化対策などを図るため、港湾、漁港、漁場の整備及び機能強化を推進することが必要と考えております。

また、北海道のインバウンド観光の振興に対応した機能の強化、国内外の航空ネットワークの強化を図るため、空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。

会員各企業は、安定的・持続的な経営の下で社会資本整備を通じて地域の発展に貢献する役割を適切に担ってまいりたいと考えており、令和2年度の港湾、漁港、空港関係予算につきまして増額確保をお願いいたします。

また、冬期間における事業量の確保及び工事の平準化のため、令和元年度補正予算の早期の編成と執行をお願いいたします。

2 週休2日工事について

建設業における働き方改革を推進するため、週休2日工事の本格的導入に向けて平成30年度から試行工事が実施されており、当協会も港湾空港建設業の健全な発展のため、その実現に向けて取り組みを推進してまいります。

つきましては、実施にあたって課題とされている、適正な発注時期及び工期の確保、工事書類の簡素化、設計労務単価の大幅な引き上げをお願いいたします。また、港湾工事特有の海象条件による現場閉所の定義や試行工事で確認された課題について、柔軟な対応策の検討をお願いいたします。

3 港湾工事における入札・契約制度の改善について

地域の暮らしと経済を支える大切なインフラ整備において、期待される機能を発揮できる品質を確保するため、発注者、受注者の双方が適切に連携しその責務を果たしていくことが必要と考えております。

つきましては、入札・契約制度について、適切な設計変更、見積活用方式の拡大等について検討をお願いいたします。

(1) 適切な設計変更について

工事の設計変更につきまして、実態に即した設計変更

の配慮がなされてきているところですが、設計変更の協議に時間を要するケースなどが見受けられます。つきましては、さらなる適切な設計変更及び設計変更手続きの検討をお願いいたします。

(2) 見積活用方式の拡大について

平成28年12月より運用されている見積活用方式により、現場実態と積算内容に乖離が見られる場合などに効果をj得ているところですが、さらに、標準積算による工事費と実態工事費に大きく乖離している工種における「見積活用方式」の拡大をお願いいたします。

(3) 総合評価落札方式における提出資料の簡素化について

総合評価落札方式では、評価項目数に比例して証明資料が増加することから、受注者が提出する入札システム申請時における資料簡素化のため、全ての開発建設部において、技術者及び企業に関する評価項目など毎回共通する資料について、年度初めまたは初回申請時に提出登録を行った以後は、提出を省略することができる制度の検討をお願いいたします。

(4) 低入札価格調査基準の引き上げについて

昨年度、設定範囲の改定が行われ、公共工事の品質確保、会員企業の適切な利潤の確保に寄与するものと考えています。公共工事のさらなる品質確保、地域建設業の健全な活動を維持するため、引き続き調査基準の引き上げをお願いいたします。

——— 以下、他協会の要望事項 ———

(一社)北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 令和2年度当初予算の増額確保について
2. ゼロ国債の措置について
3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
4. 地域活性化に必要な港湾施設の整備について
5. 地元建設企業への受注機会の確保等について

(一社)全日本漁港建設協会 北海道支部長

1. 令和2年度水産基盤整備事業（漁港漁場整備）予算等の確保について
2. 持続的で安定的な予算の確保について

3. 防災・減災対策の更なる推進について
4. 早期発注及びゆとりある工期の設定について

(一社)日本埋立浚渫協会

1. 港湾関係公共事業予算の確保について
2. 「適切な発注時期・工期の設定」に向けての取組み推進
3. 技術提案評価型（S型）またはWTO準拠型工事の確保について
4. 「ICT・CIM」活用の推進について

(一社)日本海上起重技術協会

1. 令和2年度港湾関係予算の確保について
2. 作業船保有業者が持続的に活動できる入札契約制度の運用について
3. 海上工事における働き方改革と工事発注の改善について
4. 働き方改革を推進するための作業船保有に対する改善について

全国浚渫業協会

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大
2. 港湾工事における作業船等の働き方改革
3. 担い手の確保・育成に関する取り組み
4. 作業船の買換えに係る特例措置の延長
5. ICT活用工事（浚渫工）の推進

(一社)日本潜水協会

1. 港湾潜水作業にかかる事業量の確保について
2. 港湾潜水技士資格の活用について
3. 潜水土の担い手育成への支援について
4. 適正な働き方改革の適用について

日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局が意見交換会を開催

令和元年12月5日（木）ホテルパールスター札幌において日本港湾空港建設協会連合会と当協会の共催で国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催しました。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局・日港連

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部

部長

港湾計画課長

港湾計画課港湾企画官

港湾建設課長

港湾建設課長補佐

港湾建設課建設第2係長

港湾行政課長

港湾行政課長補佐

空港・防災課長

空港・防災課長補佐

農業水産部

水産課長

水産課水産企画官

魚 住 聡

箕 作 幸 治

白 熊 良 平

早 川 哲 也

先 川 光 弘

森 昌 也

加 藤 章

井 本 丈 博

北 原 政 宏

日 色 徳 彦

横 山 純

星 道 太



魚住港湾空港部長



林田日港連会長

◎北海道港湾空港建設協会

会長

副会長（技術委員長）

副会長

副会長

技術委員会副委員長

委員（部会長）

委員（副部会長）

委員

委員

委員

宮 崎 英 樹

藤 田 幸 洋

小 野 寺 勇

西 村 幸 治

宮 本 義 憲

岡 崎 光 信

（日港連技術委員）

三 原 一 憲

（日港連技術委員）

岩 城 儀 人

齊 藤 勝 司

市 来 隆

◎日本港湾空港建設協会連合会

会長

専務理事

技術委員長

技術ワーキング委員会委員長

林 田 博

津 田 修 一

大 滝 雅 宣

平 口 哲 明

要望事項

平素より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目標に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立され、以来35年を数えます。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備を担い、また、災害時には復旧・復興に携わることで建設業の立場から我が国の経済社会の発展に寄与して参りました。

現在、我が国は人口減少・少子高齢化をはじめ、これまで経験したことのないような経済社会の大きな変革期を迎えています。このような状況のもと、建設産業においても、担い手の育成・確保、生産性の向上が急務であり、これを推し進めるため会員各社は週休二日の確保をはじめとする働き方改革に積極的に取り組んでいます。

一方で、日港連の会員企業が経営の基盤とする港湾空港整備に関わる事業の将来見通しは必ずしも明確ではなく、港湾空港整備を主体とした建設業として今後も存続していけるか大きな不安を抱えております。

全国に所在する日港連の会員企業は、働き方改革等現在の大きな変革を成し遂げ、将来においても地域社会の安全安心、発展に貢献して参りたいと考えております。

つきましては、私どもの懸案事項について、下記のとおり要望しますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 地域の安全・安心を支える 港湾空港建設業の体制の確保

我が国の経済発展を支えるため、産業の生産性向上や競争力強化、訪日外国人誘致による観光振興が不可欠である。そのため、国際物流の活発化、産業の競争力強化を支える基幹的インフラとしての港湾の継続的な整備が

必要であるとともに、地域経済を活性化するため、急増するクルーズ船の受入れ環境を早急に整備することが求められる。さらに、近年多発する自然災害に対し、安全・安心な国民の暮らしを実現するためにも災害対応力のあ

る港湾整備が重要である。これら港湾整備を進めるためには、海上における施設整備を確実に担える技術力と災害時など緊急事態においても活動できる機動力のある建設業を維持・育成しておくことが大切である。一方、海上施工技術を備えた人材を確保・育成することに加え、作業船等大型の機材を保有・運用することで工事を行っていく港湾空港建設業は、将来の事業見通しの不透明さにより、厳しい経営環境におかれている。

このため、港湾空港建設業が今後も安定的に活動できる環境の整備を要望する。

- ・意欲のある地域企業が事業に参加できる入札
- ・契約制度の充実
- ・地域企業にとって継続的な投資が可能となるよう中長期的な事業見通しの公表
- ・作業船の買換えに係る税制特例措置の延長

2. 港湾空港建設業の働き方改革の推進

長時間労働の是正のため、会員各社は様々な取り組みを行っている。しかしながら、残業時間など依然として長時間労働が行われている現状にある。

2024年度から建設業に適用される時間外労働の上限規制（原則月45時間かつ年360時間）を満たすためには、従来の枠組みにとらわれない大胆な発想で働き方改革を推進することが必要であり、受注者において一層の取り組みを行うとともに、発注者の理解と積極的な対応をお願いしたい。

(1) 適正な工期設定

休日確保のためには、適正な工期の設定が最重要事項である。昨年度からすべての工事を対象に行われている工程提示型工事において、適切な時期に標

準工程表の提示があったケースは4割以下となっている。また、提示された工程表が受注者にとって参考になったケースが6割弱、工程表について協議が実施されたケースも4割程度にとどまっている。発注者において工程表の重要性について必ずしも広く認識されていないと考えられる。

このため、適正な工程の設定のための積極的な対応を要望する。

- ・実施工程と差異の少ないより精度の高い標準工程表の作成
- ・契約後速やかな標準工程表の提示と工程協議の徹底

(2) 週休二日を実現する工事発注

港湾工事において週休二日を実現するためには、発注者において気象・海象等自然条件を適切に考慮した工事仕様を作成した上で、受注者の実施意欲を最大限引き出すことが求められる。昨年度実施した休日確保評価型において、予定どおり休日を確保できたものは7割以下となっている。休日を確保できなかった理由として、そのほとんどが工程の余裕や気象・海象リスクを挙げている。

このため、今後進める休日を確保するための試行工事について、適切な対応をお願いしたい。

- ・海象リスク等を考慮した適正な工期設定に基づく休日確保評価型試行工事の実施
- ・荒天リスク精算型試行工事の海上工事への適用拡大

(3) 担い手の確保・育成

担い手の確保・育成は地域企業にとって大きな課題であり、若手技術者登用促進型の工事発注は、技術者の育成には効果的であり、引き続き積極的な展開をお願いする。一方、今後の事業見通しが不透明な現状において、地域企業は積極的な担い手確保の取り組みを行っていない状況にある。

また、ICTの導入拡大のためには、大手、中小企業とも技術者の教育・指導を中心的な課題に挙げて

おり、ICTに対応した若手技術者、技能者の育成を官民の協力・連携のもと進める必要がある。

このため、担い手の確保・育成を支援できる取り組みをお願いしたい。

- ・育成を支援できる取り組みをお願いしたい
- ・担い手の確保・育成を担保できる中長期的な事業見通しの公表
- ・ICT等新しい技術に関するアドバイザー派遣など技術者教育を支援する仕組みの構築

3. 港湾空港建設業の生産性の向上

生産性の向上は、週休二日等働き方改革の達成、担い手確保のため強力に推進すべきである。特に、現場技術者の負担軽減のため、徹底した現場管理の効率化を進める必要がある。技術者が現場で実際に“見る”“触れる”“聴く”ことで本来の現場管理が行え、その結果、構造物の品質の向上、工事現場の安全性の確保が一層進むものと考えられる。現場技術者をデスクから解放する積極的な対応をお願いしたい。

(1) 徹底的な業務の効率化

工事書類の簡素化・削減の取り組みの結果、その効果を実感できる状況にある。一方、地方整備局毎に見ると、その取り組みの進捗に違いが見られる。また、紙あるいは一部紙資料による工事検査が5割以上で行われており、成果物の納品についても2割が紙資料の提出を求められている。紙資料の使用に関しては従来からの“慣れ”の問題もあり、受発注者双方において一層の意識改革を進めるとともに、より利用し易く機能性が高い電子資料・検査方法を要望する。

- ・工事書類簡素化の具体的取り組み内容の受発注者双方への周知徹底
- ・電子納品、電子検査に関する研修・講習会の開催
- ・データの検索性や受注者が活用する現場管理システムとの接続性など現行の工事帳票管理システ

ムの改良

(2) ICT活用による生産性向上

港湾工事の生産性向上においてICT活用は有効であり、会員各社においてICT浸透への対応は進んでいる。引き続き、他工種への展開をお願いする。

他方、日常的な現場管理において、タブレット等携帯端末の導入は生産性向上に効果的と考えられるが、費用負担の問題、技術者教育・指導の必要性等から必ずしも普及が進んでいない。また、現場管理における携帯端末等の効果的な利用には、監督・検査業務との連携も極めて重要であり、ICT機器の導入促進にあたって発注者の積極的な関与を要望する。

- ・現場管理用ICT機器の導入を後押しするためのインセンティブの付与
- ・工事帳票管理システムの改良（再掲）
- ・官民共同の講習会等の実施

4. 港湾工事における入札・契約制度の改善

地域の暮らしと経済にとって大切なインフラ整備において、期待される機能をしっかり発揮できる品質の公共工事を進めるためには、受発注者の双方が対等な立場のもと適切に連携しつつ各々の責務を果たしていくことが必要である。そのうえで、働き方改革、生産性の向上、担い手確保・育成等、大きな変革に確実に対応できるよう入札・契約制度の改善が求められる。

(1) 適切な設計変更

工事の設計変更はほぼ全ての工事（9割以上）で実施されており、満足できる変更契約となっているケースが増加するなど、総体としては良好であると考えられる。他方、設計変更協議に時間を要するケース、協議資料作成にかかる経費について受注者負担となっているケース等が存在している。また、非効率な設計変更協議が続くことが長時間労働の

要因になっていることも考えられ、適切な設計変更をお願いしたい。

- ・最新事例を網羅した設計変更事例集の作成など「港湾工事における契約変更事務ガイドライン」の内容充実とその周知徹底
- ・設計変更に係わる資料の作成業務等の必要経費の計上

(2) 入札事務手続きの改善

入札事務手続きの際の添付書類の削減は進んでいるが、申請データ量が容量を超えるケースが昨年度において3割程度発生している状況にある。添付書類の更なる削減と現行の容量（3MB）の早急な拡大をお願いしたい。

(3) 低入札価格調査基準の引き上げ

昨年度、設定範囲の改定が行われ、公共工事の品質確保、会員会社の適切な利潤の確保に寄与するものと考えている。公共工事の更なる品質確保、地域建設業の健全な活動を維持するため、引き続きの調査基準を引き上げるとともに、公共調達制度も含め港湾管理者等へ広く浸透させることを要望する。

港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者が 意見交換会を開催

令和元年11月28日（木）小田ビル会議室において、港関係団体連絡会（岡崎光信会長）は、北海道開発局と令和元年度港湾・空港・漁港工事に関する意見交換会を開催しました。

北海道開発局から港湾空港部 早川哲也港湾建設課長、北原政宏空港・防災課長、農業水産部 横山純水産課長など7名が出席、港関係団体連絡会から岡崎光信会長、山田悦郎副会長、古田圭也副会長など港関係7団体から15名が出席して「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換会を行いました。

主要要望内容は以下のとおりです。



岡崎光信会長 挨拶



早川哲也港湾建設課長 挨拶



意見交換の様子

主 要 望 内 容

入札・契約に関する要望

1. 配置予定技術者
2. 特別調査単価（部局単価）及び見積単価（歩掛）
 - 2-1 見積徴収方式の提出期間について
 - 2-2 その他工事費分の公表について
3. 競争参加資格・契約締結資格・入札書・技術提案等の提出期間及び落札日時
 - 3-1 競争参加資格の様式について
 - 3-2 施工能力評価型の開札までの期間短縮について
 - 3-3 入札時の資料提出の簡素化について

設計・施工に関する要望

1. 基礎捨石・均し・石かご
2. 浚渫
3. 海域区域の供用係数・荒天リスク精査型
4. 設計変更・契約変更
 - 4-1 工事の設計変更時について
 - 4-2 地域外からの労働者確保について
5. 工事成績評定

北海道水産林務部 令和元年度 水産土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、令和元年度水産土木工事等優秀業者感謝状の贈呈式を12月17日（火）ホテル札幌ガーデンパレスで挙行了しました。同部所管の平成30年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に貢献した工事部門21社（実数20社）、委託部門5社に知事感謝状が手渡されました。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会員、㈱吉本組、酒井建設㈱、萩原建設工業㈱、釧石工業㈱の4社が受賞しました。

〔水産土木部門受賞〕

㈱吉本組（岩内町） 代表取締役社長 吉本 貴昭

萩原建設工業㈱（帯広市）代表取締役社長 萩原 一利

酒井建設㈱（新ひだか町）代表取締役 酒井 芳宏

釧石工業㈱（釧路市） 代表取締役 西村 智久



（写真提供：北海道水産林務部）

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」開催

（公社）日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体は、「令和元年度経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を10月24日（木）東京・平河町の砂防会館別館において開催し、全国各地から港湾関係者約1,000名が参加しました（北海道港湾空港建設協会関係者は約60名）。

来賓として青木一彦国土交通副大臣、門 博文、佐々木 紀、和田政宗国土交通大臣政務官のほか、望月義夫自民党港湾議員連盟会長をはじめ約110名の議員が駆け付け大会を盛り上げました。

開会にあたり主催者を代表して、宗岡正二日本港湾協会会長、林 文子全国市長会港湾都市協議会会長（横浜市長）が挨拶を述べられました。

来賓代表として青木一彦国土交通副大臣が祝辞を述べられ、望月義夫港湾海岸防災協議会会長（自民党港湾議

員連盟会長）からご挨拶をいただきました。その後、高田昌行国土交通省港湾局長から港湾行政報告として、令和2年度予算要求に関する重点施策の説明があり、駒井久晃羽幌町長を含めた地域の代表2名の方が港湾整備・振興に関する意見表明を行いました。続いて、「港湾整備・振興に関する要望書」を満場一致で決議し、宗岡正二日本港湾協会会長から青木一彦国土交通副大臣、佐々木紀国土交通大臣政務官、和田政宗国土交通大臣政務官に要望書が手渡されました。

要 望 項 目

1. 多発する大規模自然災害からの復旧・復興
2. 日本経済の成長力強化
3. 国民の安全・安心確保
4. 地域の活性化と豊かで利便性の高い地域社会の実現



宗岡正二日本港湾協会会長の挨拶



会場の様子

令和元年度 函館港大規模地震・津波総合防災訓練

北海道開発局、北海道開発局函館開発建設部及び函館市（港湾管理者）主催による「函館港大規模地震・津波総合防災訓練」が10月27日（日）10時30分より函館港港町埠頭A岸壁（-14m）において開催されました。

朝方までの雨も上がり、時折日差しはさすものの、気温13度と肌寒い中、予定どおり10時30分に北海道開発局函館開発建設部樺澤孝人部長の訓練開始宣言で訓練が開始されました。

訓練目的は、三陸沖北部を震源とする大規模地震及びこれに伴う津波襲来による災害によって、港湾施設に被害が発生した場合の港湾機能の早期回復等に備え、関係機関との連携強化ならびに防災意識の高揚としています。

訓練は午前10時30分ごろに、三陸沖北部を震源とするマグニチュード8.3の地震が発生し、函館市で震度6強の強い揺れが生じ、地震発生直後に大津波警報が発表され、最大8.9mの津波が襲来、その後、津波注意報に切り替わり、津波注意報も解除されたとの想定で実施されました。

訓練では、開会式に引き続き①津波襲来に備えた避難訓練 ②漂流者を想定した漂流者捜索・救助訓練 ③港湾施設の被災状況を海上から調査する港湾巡視訓練 ④重油が海上に流出した状況を想定した油防除訓練 ⑤コンテナの航路流出を想定した航路啓開訓練 ⑥岸壁の被災状況を調査する被災状況調査訓練 ⑦船舶により、緊急支援物資が輸送されたと想定した緊急支援物資輸送訓練を実施しました。



函館港大規模地震・津波総合訓練 開会式

参加機関・団体は、第一管区海上保安本部函館航空基地、函館海上保安部、陸上自衛隊北部方面隊第11旅団、海上自衛隊函館基地、函館西警察署、函館市消防本部、(一社)日本埋立浚渫協会北海道支部、北海道港湾空港建設協会、(一社)日本海上起重技術協会北海道支部、全国浚渫業協会北海道支部、(一社)海洋調査協会、(一社)港湾技術コンサルタント協会、北海道ポートエンジニアリング協会、(一社)函館建設業協会、函館測量設計建設業協会、北海道みなとの文化振興機構(防災エキスパート)、みなとまちづくり女性ネットワーク函館及び函館

港湾事務所工事安全連絡協議会です。

本訓練では、海上自衛隊の護衛艦「ありあけ」も参加し、緊急支援物資を海上自衛隊、陸上自衛隊、函館市職員、函館開発建設部職員による護衛艦から陸上自衛隊のトラックに積み込む訓練も行われ、参加した方々は緊急物資を機敏に手渡していました。

訓練は予定どおりに進行し、最後に北海道開発局港湾空港部空港・防災課の北原政宏課長より講評があり、訓練に参加した関係機関、団体に感謝を述べて終了しました。



護衛艦「ありあけ」による緊急支援物資輸送訓練状況



訓練の講評を述べる北海道開発局港湾空港部空港・防災課 北原政宏課長

稚内港北護岸防波改良工事

藤建設株式会社 阿部 正和

1. 工事の概要

稚内港のシンボルである北護岸（北防波堤ドーム）は、昭和6年に稚内市と樺太（サハリン）の大泊（コルサコフ）を結ぶ稚泊航路連絡船を、高波から守るため着工し5年の歳月をかけ昭和11年に完成しました。

平成13年に北海道遺産、15年には土木学会選奨土木遺産にも選奨されています。（写真1）

建設から40年経過した昭和50年頃にはコンクリートの表面剥離が顕著となり、昭和53年から全面改修（原形復旧）が行われ、平成に入ってから平成11年から14年に柱部の耐震強化補強工事も行われました。

全面改修から41年が経過し、コンクリート劣化に伴う鉄筋の露出等老朽化が顕在化し、利用上の危険が伴うことから補修工事を行うことになりました。



写真1 稚内港北防波堤ドーム

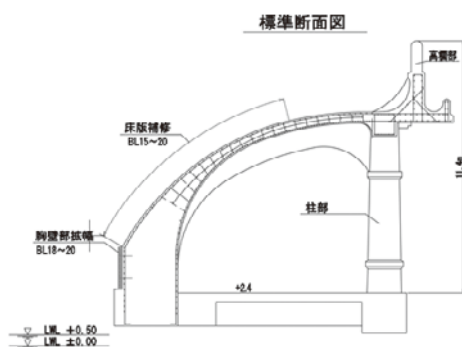


図1 北護岸（北防波堤ドーム）補修概要図

施工にあたっては、対象施設が外海に面し海象状況が影響するので、特に床版部の工事可能期間は5月～10月までの短い期間に限定される為、効率的な施工が必要であり、海象の急変に対応すべく移設可能な軽装備施工を計画しなければなりません。

この補修工事は平成28年から着手し昨年までに約70m施工、今年度は本工事109mとその2工事91mの約200mを施工しました。（図1）

2. 工事の作業状況

①床版部

事前に劣化調査を行った床版部を2.0m×2.0mの区画毎にハツリ厚を決め、ウォータージェット（以下WJと言う）工法と人力にて除去後、ポリマーセメントモルタル（靱性モルタル）を吹付け断面修復を行いました。（写真2,3）

②胸壁部

事前調査の結果、今回の施工箇所における劣化部分の

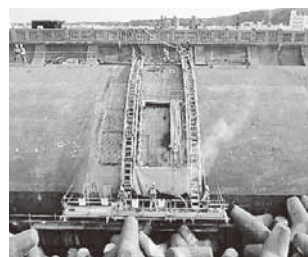


写真2 WJ工法作業状況



写真3 床版部モルタル吹付作業状況



写真4 胸壁部コンクリート打設状況

ハツリは必要なく、今後の劣化因子侵入防止のため、20cmの厚さで既設コンクリートを増厚しました。(写真4)

3. 工事の留意点

本工事は隣接する前浜がウニやコンブ等の水産資源が豊富な漁場となっているため、WJ施工時に発生するハツリ殻や汚濁水による水質汚濁防止対策が必要となります。また、北護岸の曲面床版施工におけるWJ施工や足場設置撤去の安全対策、さらに観光施設として景観に配慮することが重要となるため以下の対策を講じました。

①WJ施工時は、施工箇所下端に防水シートを取付けたハツリ殻・汚濁水受けを設置して、集積しながら強力吸引車にて吸い取り適正処理を行いました。(図2)

②ドーム面に沿った形状の作業用曲面足場を製作し、床版上に延長方向への移動用レールを設置して移動の都度クレーンを要しない対策を講じました。(写真5)

また、ウォータージェットについても、当該足場を利用する曲面専用フレームを製作して、半自動形式で安全かつ効率の良い施工方法を実施しました。(写真6)

③この北防波堤ドームは、多くの観光客や市内のさまざま

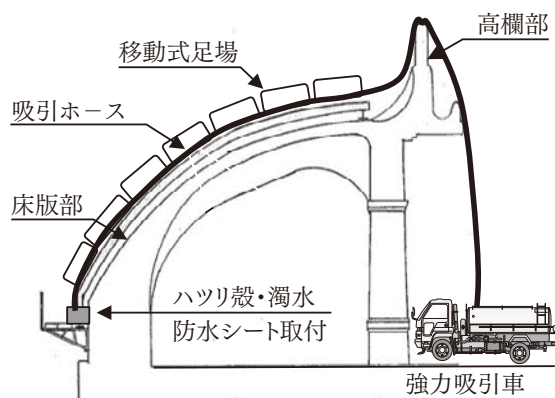


図2 水質汚濁防止対策図



写真5 作業用曲面足場設置状況

なイベント等で利用される為、それらへの影響を避けて外側床版部へはドーム終点部に1箇所だけ設けた昇降足場を使って、ドーム高欄部側を作業用歩行通路として利用しました。(写真7,8)

4. あとがき

今年度は6月から12月までの期間で本工事を含め2工区の工事を当社で施工しました。

10月と11月に発達した低気圧の影響で最終工程の消波工が12月まで遅れましたが、無事完成することが出来ました。(写真9)

これも発注者はじめ協力企業等関係各位の力添えのお陰と心より感謝申し上げます。

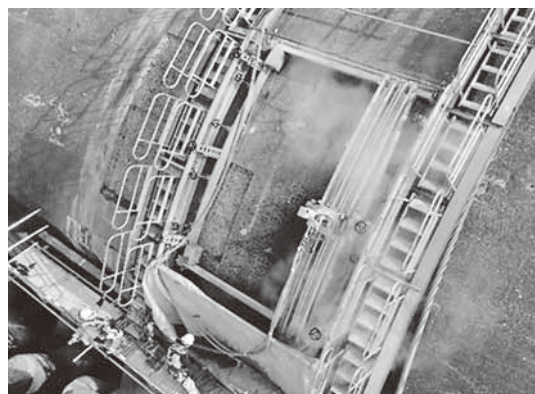


写真6 曲面専用WJフレーム



写真7 昇降足場設置状況



写真8 現場内通路設置状況



写真9 今年度分完了状況

苫小牧港西港区真古舞地区 国際物流ターミナル整備事業について

室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

苫小牧港西港区は、全国各地とのフェリーやRORO船による国内定期航路ネットワークが形成され、国内貨物の取扱量は全国第1位となっているほか、周辺に多数立地する製造業の原材料の受入れや製品等の積み出し基地として、北海道の基幹産業を支えています。

しかし、港内には多目的に利用できる公共岸壁が不足しており、特に真古舞地区中央北ふ頭では、鋼材、飼肥料等の貨物船が集中し、岸壁の混雑が深刻な状況にありました。

この課題を解決するため、室蘭開発建設部と苫小牧港管理組合では、未利用となっている旧貯木場水面を埋立て、新たな係留施設を整備することとし、令和元年度に本格的な工事に着手しました。

本事業は、直轄事業で整備する岸壁（中央北-12m）（改良）、泊地（-12m）（改良）、港湾施設用地に加え、起債事業で整備するふ頭用地で構成され、総事業費70億円（うち港湾整備事業65億円）を投じて、令和4年度の完成を目指します。（図1）

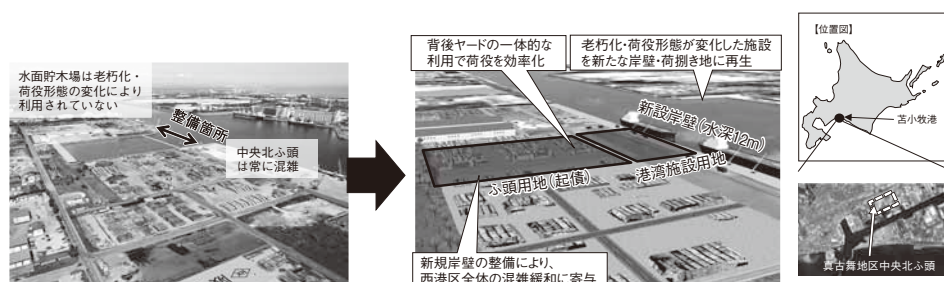


図1 整備箇所の状況

本格的施工に先立つ11月9日、苫小牧市内で地元選出の国会議員や港湾関係者など50人が参加した着工式典が挙行政され、大型事業のスタートを祝いました。



着工式典のようす

主要施設である岸壁（中央北-12m）（改良）は、施設延長が230m、水深12mで、構造形式はケーソン式混成堤を採用しました。

令和元年度の工事では、ケーソン2函の製作及び据付を行い、本体延長46mの施工を行います。ケーソンの中詰材にはコスト削減策として浚渫土砂と製鋼スラグの混合材を活用するほか施工計画における3次元モデルの活用などにも取り組みます。（図2、図3）

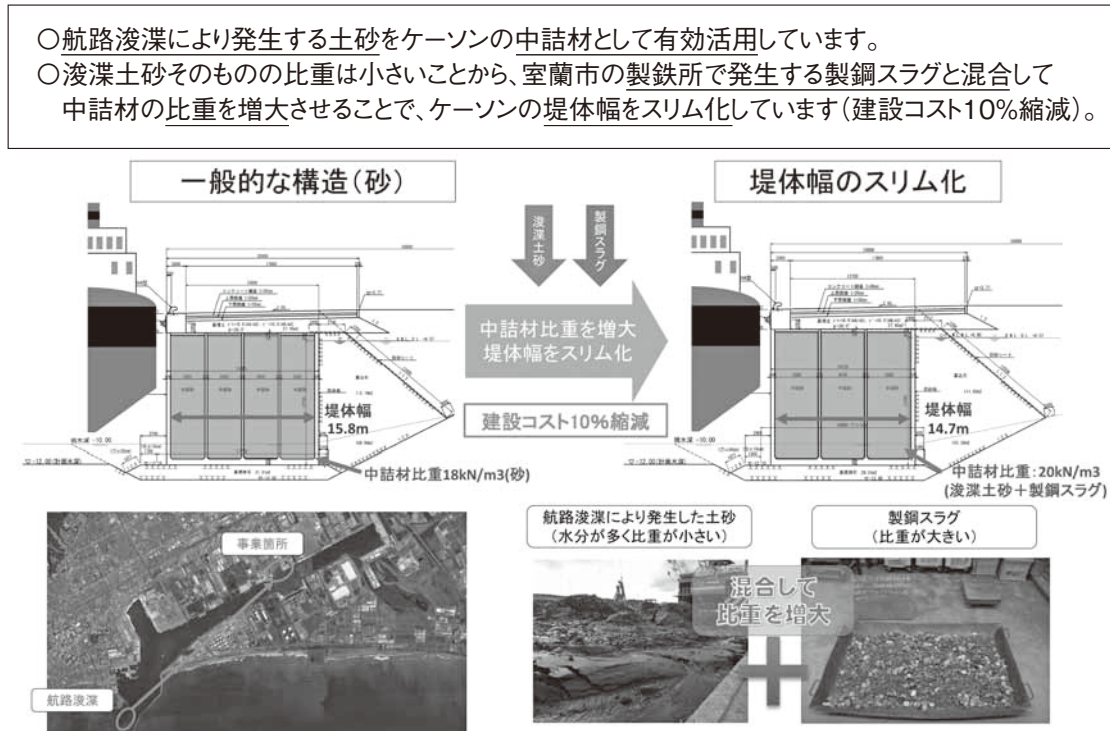
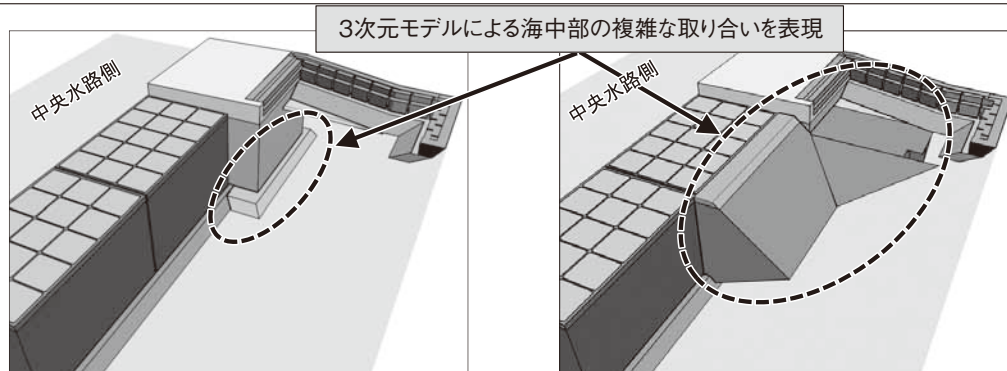


図2 建設コスト削減に向けた工夫(浚渫土砂と製鋼スラグを中詰材へリサイクル)

- 国土交通省では、3次元モデル等を活用するi-Constructionの推進に取り組んでいます。
○本事業では、3次元モデルを活用することで、既設構造物との取り合いが複雑な施工箇所が『見える化』され、工事関係者間での迅速な認識共有、様々な角度からの施工検討が可能となります。
○これにより、品質向上、安全対策の向上、施工計画等の生産性向上を図ります。



<3次元モデルの活用効果(工事関係者の声)>

- これまで、既設構造物との取り合いの部分は複雑で、通常の図面では状況把握に熟練の技術が必要でした。
- 3次元モデルの活用により、不可視部分が見える化し、潜水士への的確な作業指示が可能となり品質向上に繋がるほか、現場の安全対策や人員配置・資材確保の計画が容易になり生産性向上が期待できます。

図3 3次元モデルを活用した施工検討

私の趣味

『一生続けられる趣味』

東亜建設工業株式会社 小野寺 勇

はじめに

まさか私に執筆依頼が…で始まる「私の趣味」ですが、実は平成31年4月から広報委員長を務めさせていただいておりまして、就任直後に「近いうちに執筆をお願いします」とのお話がありました。それ以来、準備をしておけばよかったのですが、原稿締切日の連絡をいただいてから慌てて書いている次第です。(文章を書くより、昔の写真を探るのが大変でした…)

幼少期～

私は兵庫県姫路市出身で、姫路と言えば白鷺城の城下町を想像されるかと思いますが就職するまでは、海と山と川がある田舎町で育ちました。趣味と呼べるもので幼少の頃より続けていたのはサッカーと釣りです。自然に恵まれた地域で育ったこともあり、自宅近くの川ではフナ・ナマズ・ウナギ釣り、池や湖ではブラックバス、海ではハゼ・アジ・鯖・太刀魚、少し足を延ばして溪流でのアマゴ釣りといろんな釣りを年中やっていました。残念ながら就職してからはほとんどやっておらず、10年以上前に子供たちと釣り堀でニジマスを釣ったのが最後です。サッカーについては、就職してから年々増加する体重とともに疎遠となり、Jリーグやワールドカップのテレビ観戦専門となりました。機会があれば溪流釣りはやってみたい気がします。(ヒグマが怖いですが…)

青春時代

サッカーを続けていた青春時代は、アルバイトにも精を出し、貯めたお金でカワサキのオートバイ

(GPZ400F)を購入しました。(1980年代はバイクブームの全盛期だったと思います) テントと寝袋を積んで鳥取砂丘や広島島の尾道・宮島、関門海峡を渡り、九州一周など色んなところに出かけました。苦労して手に入れた初代バイクは残念ながら車との事故で廃車となりました。(奇跡的に自身は軽い打撲のみでした…)

就職して初任給を待たずに2代目バイク(初代と同じカワサキのGPZ400R)をローンで購入しましたが、時はバブル絶頂期、今とは違い毎週日曜日が休めるかどうか分からない忙しい日々であり乗る機会もなく、結婚・転勤を機に泣く泣く売却しました。(二束三文で買ったたかれ…) 今となってはビックリするほどの高値で売買されており、売らなければよかったと後悔しております。



若かりし頃の私(撮影場所不明)

社会人となって

社会人となり現場勤務の忙しい中、結婚して子宝にも恵まれ(一女・三男)単身赴任や子育てに忙しく(嫁には「忙しかったのは私だけ」といわれますが…) 趣味らしい趣味もなく過ごしていました。それでも、休みと時間に縛られない読書に熱中した

し、今では「山本周五郎」や「池波正太郎」「藤沢周平」など時代劇をこよなく愛する読書家です。最近では読んだ本が絶対に捨てられない性分なので読書が趣味なのか本の収集が趣味なのかわからなくなっています。

北海道に赴任して

北海道に赴任して18年となりますが、恵まれた自然環境もあり夫婦で登山を始めました。体力的には自信がないので、登り片道2時間程度の低山専門ですが「八剣山」「徳舜瞥山」「樽前山」「黒岳」「駒ヶ岳」「アポイ岳」と全道各地に行っています。

嫁は体力に自信があるらしく、「羊蹄山」や「富士山」にも登頂しています。

登山と同じくして始めたのがサイクリ

ングです。北海道の雄大な景色を眺めながら80km～100kmを一日かけて途中の中継所で北海道グルメを堪能しながら完走する「グルメフォンド」なるものがあり、これも夫婦で時々参加しています。夏季休暇には自転車にテントと寝袋を積んで一人で旅をする「キャンプツーリング」にもはまっており、札幌の自宅から千歳・苫小牧経由で襟裳岬を目指して旅(片道220km)したときは、海岸線の坂の多さに途中の新冠(片道120km)で断念し、疲労困憊で自宅にたどり着きました。去年はその時の反省からなる

べく坂の少なく距離の短いルート重視で札幌から苫小牧・白老を経由して室蘭までの計画(片道120km)を2泊3日で走破しました。今は次の旅に向けて計画中ですが、瀬戸内海の「しまなみ街道」(サイクリストの聖地)には是非一度行ってみたいと思っています。最近では自転車の所有台数が増えて、サイクリングが趣味なのか自転車収集が趣味なのかが怪しくなってきました。



尻別岳(背後に見えるのは羊蹄山)



徳舜瞥山(標高はこの辺りが限界1,309m)



グルメフォンド(十勝平野を疾走中?)

最後になりますが、表題の「一生続けられる趣味」ですが、今回の執筆に際して幼少期からの趣味を色々振り返り、昔の写真を探したり忘れていた思い出を懐かしく思い出したりして貴重な体験でした。私の趣味遍歴の中でサッカーやバイクについては今更再開することは難しいですが、読書については、収集したまま読んでいない本が沢山あり、まだまだ買いたい本も色々あるので一生続けられる趣味だと思います。しかしながら、自宅で毎日読書をしながらゴロゴロする姿は家族にとっては迷惑そうだし、自分自身でもぞっとしません。最近はゴルフにお誘いいただける機会も増えてきましたし(まだまだ趣味と呼べるほど上達していませんが…)、ひょっとしたら、これからまだ出会えていない趣味と巡り合うかもしれません。まだまだ体力の続く限りは、登山とサイクリングにゴルフとまだ出会えていない運命の趣味を続けたいと考えています。

「私たちの主張 ～未来を創造する建設業～」

㈱菅原組 小林 弘和

国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会は建設業を担う方々の意識高揚を図るとともに、一般の方に建設業の役割や重要性の理解と関心を高めていただくため「私たちの主張～未来を創造する建設業～」をテーマとして作文を募集し、優秀作品を表彰しています。

今年度、小林弘和管理本部長が日ごろの仕事を通じて感じる建設業への思い、社会貢献への取組等を「働く喜びを伝えたい」とのテーマで応募したところ、応募479作品の中から国土交通大臣賞2作品、土地・建設産業局長2作品及び佳作10作品の中で佳作を受賞しました。

令和元年10月17日北海道開発局において、受賞者表彰式が行われましたので、ご紹介します。

働く喜びを伝えたい

私は北海道最南端の松前町で生まれ、両親と兄妹、祖父母とともに育った。

漁師のおじいちゃんに可愛がられて育ち、漁についていっては、「大人になったら世の中の役に立つことをしなさい、人のためになることをしなさい。」といつも言われていた。

情報系の学校を卒業後、父の勧めもあり、地元の建設会社に事務職として就職したのが20数年前のこと。

採用された会社は港湾・漁港などの海洋土木を主な事業とするマリコンだった。

入社後はパソコンなどで工事現場をサポートする仕事もしていたおかげで、これまで数多くの現場を目にすることができた。

そこには港づくりに携わる多くの人達がいた。防波堤や岸壁を作るために生コンなどの材料を運ぶ人、クレーンを運転する人、型枠を組み立てる人、ポンプ車を動か

す人、海中に潜る潜水土、船を操縦する人や起重機船上で働く人、現場を管理する現場監督たちなど、様々な業種・工種の人達が関係している。

現場代理人は作業関係者と綿密に打合せをし、みんなで知恵を出し合い、イイモノを作ろうと協力し合っている。

自然相手の海の工事は風を逃さないように朝早くから段取りをして、日中は現場で汗を流し、終わってからは事務所に戻って書類作りもする。本当に大変な仕事だと思う。

地域住民からの要望も聞き、安全を最優先に良い品質で環境にも配慮し工期内に、そして予算内に完成させなければならない。

求められることは山のようにあって大変だが、これらをこなしていくことが技術者としての醍醐味であり、やりがいでもあり、面白みでもあるのだろう。

同僚の現場代理人からは、「自分のやってきた工事が目に見える形として地図に残る仕事だし、後世にも残るし、子供達にも自慢できる仕事。そして何よりも完成した時の達成感がハンパないそれが建設業の魅力だ」と話してくれた。

目をキラキラさせて、そんな話を聞かせてくれるオジサン達がカッコよく見える。

建設業は様々な社会貢献活動を行っている。

利他の心で多くの時間と労力を使って現場周辺の清掃作業をはじめ、夏には草を刈り、冬には除雪、交通安全の街頭啓発、地域のお祭りへの参加、会社周辺の町内会活動への参加、小学校での重機の写生会、中学生との植樹活動、高校生や高専生、大学生などへのインターンシップ、学校への出前授業などあげればキリがない。

漁業関係者や地域住民からありがとうなどの声やいつも助かっているよと感謝の言葉をもらい、頼りにされ、

地域の役に立てている仕事、人の役に立てる仕事ができているのだと働く喜びを感じることができる。

仕事を通じてこういった社会貢献活動に自然と関わり合い、他人の喜びを自らの喜びにできるのも働く喜びの一つであり、建設業の魅力の一つだ。

様々な活動に参加することによって公共心を養うことのできる素晴らしい職業だ。

モノを作るのが建設業だが、社会貢献活動などを通じて作っているのは、実は社会に役立つヒトなのだと思う。

今になって、おじいちゃんに言われていたことが少しは出来ているのかなと思える。

建設業での仕事と社会貢献活動の経験が自分を成長させてくれているのだと感じる。

私はいま会社で採用活動に携わっていて、多くの学生に出会う機会に恵まれている。

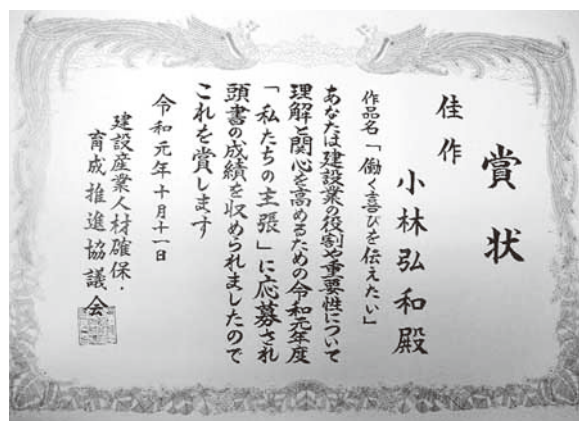
建設業は3Kで人気がないと言われることが多いが本当にそうなのだろうか。

私は建設業の魅力を伝えきれていないからではないかと思う。少なくとも私の出会った学生の多くは、建設業に魅力を感じ、建設業に進もうとする人が多い。

私は建設業が夢や希望がある職業であり、世の中や他の人から必要とされる仕事、人助けができる仕事、そして人から感謝される仕事、働く喜びがある仕事だということを、これからも未来ある多くの若者に伝えていきたい。

縁があって会社に入社してくれた若者が成長していく過程を見られること、社員の成長が会社の成長に繋がっていることを実感できるのは私自身の働く喜びでもある。

これまで出会った全ての人に感謝する。



賞状



記念撮影



齋藤調整官からの表彰状授与

イベント

京都府立海洋高等学校生を対象とした 出前講座の実施

函館開発建設部 函館港湾事務所

函館開発建設部 函館港湾事務所は令和元年10月9日京都府立海洋高校海洋工学科海洋技術コースの生徒を対象に出前講座を実施しました。

京都府立海洋高校（京都府宮津市）は水産に関する学理と技術の習得を目的に明治32年京都府水産講習所として開所され、現在、海洋科学をはじめとする海洋・水産関連5コースが開設されています。

同校に対する講座は昨年にも実施しましたが①函館市が水産業をベースにした街で水産・海洋の専門学習を深めるのに適していること、②各見学先が見学の趣旨をよく理解していただけたとのことで今年も2年生17名、教諭1名が参加しました。

出前講座では函館港湾事務所から①函館港の歴史、役割、②若松地区クルーズ船対象岸壁工事の施工状況放映、③ケーソンを用いた防波堤工事の施工法等の説明があり、その後、港湾業務艇の船内見学も行いました。

講座終了後、生徒から①学校の授業では習えないことがたくさん詰まっていた充実した2時間だった、②進路に対する意識が一層高まり、理解を深めることができた、③ケーソンを用いた防波堤工事の内容が詳細に聞くことができた、④港湾業務艇の知識を身につけることができた等の感想が送付されてきました。

（写真提供：函館開発建設部）



函館港の歴史・役割の説明



潜水服を見学する生徒



受講した17名の生徒



函館港湾事務所からの説明

第9回苫小牧漁港ホッキまつり

令和元年最初のホッキまつりが、10月20日（日）苫小牧港西港区漁港区で開催されました。

今年で9回目となる「苫小牧漁港ホッキまつり」（実行委員会主催）は、気温14度だが無風、快晴でポカポカ陽気の中、午前9時の打ち上げ花火を合図に開催されました。

飲食スペースは、開会前から満席状態で多くのグルメ屋台で販売されるホッキカレーやホッキバター焼きなどを美味しそうに食べながら楽しんでいました。

恒例のホッキ貝の販売（1袋7個入り、1人1袋、1000円）は、開会と同時に開始されたが、毎年長蛇の列

ができ、先着2000名の販売も10時過ぎには完売しました。今年は、7時前から並び始め、8時45分ごろには300m以上の長い列ができていました。

会場の裏側岸壁でも新しくできた屋根付き岸壁横で苫小牧漁協女性部によるホッキごはんや浜鍋が販売され、来場客は熱々のホッキや海産物に舌鼓を打ちながら食べていました。

屋根付き岸壁側では鮭の棒引きや無料ホッキ狩り（小学生以下対象）も行われ、メインステージ前では、地元高校生によるダンスが披露されホッキまつりを盛り上げていました。



快晴の中、賑わいを見せるホッキまつり会場



新しくできた屋根付き岸壁横の屋台（女性部）



地元高校生のダンス

大型客船等寄港

今年度最後の豪華客船寄港

今年度最後の豪華客船「ウェステルダム」(82,862トン)が12月10日、釧路港に寄港した。釧路みなとオアシス協議会や釧路国際交流の会などが、再び釧路へ訪れてもらおうと多彩な催しで乗客らをもてなした。この日ウェステルダムは、午前6時30分ごろに入港。釧路フィッシャーマンズワーフMOO隣接のEGGでは、釧路国際交流の会メンバー15人と釧路商業高校国際ビジネス科2年の生徒

31人が、習字や折り紙、民芸品の実演などでもてなした。出港間際の午後4時30分にはライブが行われたほか、市民や港湾関係者ら約200人が集まり、オレンジ色のバンダナを巻き付けた電球を振りながら出港を見送った。

写真提供：釧路開発建設部
(記事は釧路新聞から抜粋しました)



接岸中のウェステルダム



お迎え風景



お見送り風景

4年連続道内最多のクルーズ船寄港 (函館港)

昨年11月19日、令和元年最後となるクルーズ船（セレブリティ・ミレニアム 90,963トン）が函館港に寄港しました。

昨年は国内を周遊する外国船の寄港が定着したことに加え、4月から若松ふ頭の暫定供用が開始されたこともあり、寄港隻数は一昨年に比べ20隻増加し、4年連続道内最多となる過去最高の47回になりました。

47隻の内訳は外国船籍34隻、国内船籍13隻であり、4月には英国の豪華客船「クイーン・エリザベス 90,901トン」が初寄港しました。

なお、若松ふ頭においては4万トン級以下のクルーズ船着岸が可能となったことから18隻が利用しました。

セレブリティ・ミレニアムには米国、カナダ、オーストラリア等、旅客約2,000人が乗船し、市民ボランティアによる歓迎の中、市内観光に向かいました。

北海道財務局函館財務事務所においては昨年の乗客・乗員の合計は92,650人、経済波及効果は5億円にのぼると試算しています。

将来は12万トン級クルーズ船の利用も可能となるよう整備を進めています。



函館市内から（提供：函館開発建設部）



（提供：函館市役所）

（提供：函館市役所）

Information

◎広報委員会だより◎

令和2年1月現在の広報委員会は次表のとおりです。

委員長	小野寺 勇	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
(副部会長)	大前 豊	五洋建設(株)
	石島 隆司	近藤工業(株)
	上野 強	釧石工業(株)

	小玉 茂義	東亜建設工業(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)
	千葉 不二夫	勇建設(株)
	宮部 秀一	(株)菅原組
	森 信幸	(株)不動テトラ
	渡部 優	菱中建設(株)



会報「北のみなと」No.99

発行年月 令和2年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 東 志郎
 印刷 (株)須田製版